



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

「神農祭」(しんのうまつり)

大阪の道修町通りは、くすりや通りとも呼ばれ、東西に大手の有名な製薬会社の高層ビルが立ち並び薬の町です。もちろん歴史のある古い町ですから、皆さんがよく知っている昔からの小さい薬問屋もあります。各社歴史館も備えており、見学ができるようです。

この大阪道修町にある「神農さん」で親しまれている「少彦名神社」で、11月22・23日の二日間例大祭が毎年おこなわれています。この神社には日本の医薬の神様「少彦名命」(スクナヒコナノミコト)と、中国の医薬の神様「神農」がともに祀られていて、ビルの谷間のような細い敷地にあり、狭さにかよって驚きます。

見学がてらゆつくりとこの通りを歩いてみると、高層ビルの大会社も昔からの小さな会社も、道修町を支えてきた自負のような何かを感じます。懐かしい薬の名前やパッケージを見つけ

ました。平成も終わりに近づき昭和がよりレトロな時代となりそうです。

以前大阪の南港咲洲地区に海事博物館「なにわの海の時空館」があり、一度足を運びました。展示していた全長30メートルの木製船に乗り中を見学したのですが、船内の荷物を置く広さの異空間に感動しました。日本の海運業の歴史を学ぶには最適でしたが、2013年に閉館となり残念です。昔は大阪に船でいろんな生活物資が集まりその中に薬もあり、館内では詳しく説明されていました。薬に関するさまざまな情報や権利が、薬の一大拠点である道修町に集まり、港からこの町にルートができたのでしょうか。

「神農」は体が人で頭は牛といわれ、口に入る物はなんでも嘗めて、体にとつて毒か、滋養になるのか試したようです。首から上が牛とは、なんとも神話の世界のようですが、後漢時代の古典に「神農本草経」という「神農」の名が付いた最古の本草書があります。365種の薬物を上品・中品・下

品の三品に分類し記述されています。

神農祭の時期になると毎年漢方薬の問屋さんが、えべっさんの福笹のような「五葉笹」を薬局に持ってきてくれました。笹には張り子の虎が付いています。その年に新しい五葉笹が届くと一年間お世話になったというのに、古い笹はいつもそのまま「ミ」としていました。神社に行く機会がなかったこともありますが、今回お参りしてみると、皆さんはちゃんと感謝の気持ちを添えてお参りして古い笹を納め、新しい五葉笹を買っていました。

i p s 細胞やAの時代、どんどんと医療が進化していきます。今でいう先端医療ですね。そして抗がん剤オプジーボが世に出ました。今は誰もがACPを理解しなければならぬ時代です。漢方薬には少なくとも「神農本草経」から2000年は続いている長い歴史が存在しています。これからも、古い「神農さん」的な伝統のある漢方薬は残ってほしいと思います。

(東灘区 鹿嶋純子)